

実践事例の活用に当たって

実践事例は、E S Dの指導資料「学習指導要領に示された『持続可能な社会』の実現のために」（広島県教育委員会）に示した基本的な考え方や児童生徒に身に付けさせたい力が具体的な実践事例を通して理解され、各学校の今後の取組の参考となるように作成しました。

各学校の実践事例は、次のような構成・内容で作成しています。

1 取組の概要

学校全体のE S Dの取組を示しています。

2 本実践事例について

事例の解説を掲載しています。特に「(2) 指導のポイント」については、3つの「E S Dを通して児童生徒に身に付けさせたい力」(※)に係るものに下線を引き、どの力と関係しているかを示しています。

3 学習指導案または本事例の指導計画

実践の具体的な様子を、学習指導案または本事例の指導計画で示しました。

4 児童生徒の反応

実践後の変化がわかるように、児童生徒が書いた感想や指導者が見取った様子を掲載しています。

※ E S Dを通して児童生徒に身に付けさせたい力

1 環境の保全と経済の発展の両立を探究するなど、多面的・総合的に考えることができる

自然環境を守っていくことが大切である一方で、地域の人々が生活していくための環境整備も大切である。環境問題に限らず、簡単に答えが出ない問題を、様々な角度から考え、議論していくことを通して総合的に考えることができる力が求められている。

2 立場や考え方の違う人々を理解するとともに、相手を尊重しながら、協同的に課題を解決することができる

地球上では、異なる歴史や伝統、生活習慣をもつ人々がそれぞれの社会を形成して暮らしている。都市部と地方、先進国と発展途上国などで、立場や考え方が異なることも少なくない。相手の考えを理解し、尊重しながら、議論していくことを通して協同的に課題を解決することができる力が求められている。

3 誰が取り組んでも持続するようなシステムを考え、構築に向けて主体的に行動することができる

一部の関心が高い人々しか協力してくれない方法では、多くの人々が参加し、将来の世代まで続くような解決策にはならない。様々な考え方を持つ様々な人々が行動しても、問題が解決に向かうような「システム」の構築に向けて、議論していくことを通して主体的に行動できる力が求められている。